

# 中国人留学生の大学院入試における学歴資格評価の実践 ～大阪大学における大学院入試改革事例の紹介～

李 明

大阪大学グローバルイニシアティブ機構 特任助教

**中**国の留学生を受入れる際の学習歴、資格評価の実践について、特に大阪大学が2017年に設置したアドミッション支援デスク（AAD, 旧名称：龍門窓口）の取り組みを中心に、ここで期待される効果と今後の課題についてお話させていただきたいと思います。

## 1 大学院レベルの留学生受入れに関わる問題点

留学生の受入に当たって、大学側では出身大学のレベルや海外の教育制度がわからない、証明書の真贋の見分けがつかない、大学院の場合はまず教員の内諾が必要なので、教員と志願者のメールのやり取りに時間がかかる…。

よく先生方からそういったコメントをいただいています。また「コンピュータウィルスの問題で添付ファイルが怖くて開けない、そのため留学生からのメールは放置している」という先生もいらっしゃいます。そういったセキュリティ上の心配などもあります。

私も元留学生なので、よくわかるのですが、留学生にとっても申請するにあたって様々な問題点があります。大学院入試の手順がよくわからない。大学院の研究生や正

規生に応募する前に多くの場合は指導教員の内諾が必要です。特に中国の場合、修士課程は国の統一試験があり、個別に先生に連絡をする必要はないため、中国人留学生にとってどのように内諾を得ればいいのか、合格するためにはどうしたらいいのかという慣れない問題があります。

先生にメールをするにしても、どんな内容のメールを送った方がいいのか、また連絡をしても返事がない。自分の学習履歴を先生はどう受け取るのか、どのように評価されるのか、留学生にとっては心配であるわけです。そうしたことから留学生の間では“日本留学はハードルが高い”と言われています。

また、日本の大学における学習履歴の審査については、2014年の大学評価・学位

授与機構による「外国人留学生を受入れる際の審査に関する実態調査」があります。この報告書は8年前のもので、今少し改善していると思いますが、学歴審査の状況として次の3点にまとめられます。

①出身校の認可有無確認は2-3割に留まっている。②書類の申請確認の取り組みはあまり行われていない。③このような業務は難しいので、現地出身の先生がいる場合に質問する程度で、外国での学習履歴の審査は行っていない、ということになります。

このように学習履歴審査では、作業の複雑性と時間的な制約についての問題はありますが、留学生の学歴を正しく評価したいというニーズはありますので、大阪大学ではこの対策として「アドミッション支援デスク」を設置しました。

それ以前に京都大学では2010年から証明書の真贋を検証したり、2014年からはオンラインの申請システムを導入するなどしていました。こうした先行事例を参考にして、大阪大学の国際戦略や現状に合わせた

予備調査などの準備期間を経て、このアドミッション支援デスクを設置しました。

※2017年9月より、特に志願者の多い中国からの申請に対応するため、大阪大学グローバルイニシアティブ機構に「龍門窓口」を設置し、業務を開始しました。2021年11月より、出身国にかかわらず、海外から大学院への入学又は研究生として入学を希望する志願者に支援対象を拡大し、全世界対応とする運びとなりました。これに伴い、従来の龍門窓口を「アドミッション支援デスク(AAD)」に名称変更し、引き続き大学院の志願申請を支援します。

大阪大学へ留学したい方

## アドミッション支援デスク (旧名称：龍門窓口)

海外からの研究生および大学院入学志願者の方へ

大阪大学では、本学に研究生または大学院生として入学を希望する海外の大学を卒業した方（卒業見込みの方も含む）のために、アドミッション支援デスク（Admissions Assistance Desk、以下「AAD」）を用意しています。本学に研究生または大学院生として出願される場合は、多くの場合、出願前に指導を受ける教員の内部が必要となりますが、この最初のコンタクトをAADがサポートします。志願者はAADを窓口として申請することで、申請内容が正確かつ効率的に志願する教員に届きますので、出願の準備をスムーズに行うことができます。AADは、入学試験ではありません。

【対象となる方】

外国の大学を卒業または卒業見込みで、大学院生および研究生として大阪大学へ入学を希望する志願者

【申請方法】

以下の「AADオンライン申請手続きについて」をよく読み、申請の手続きを行ってください。

- (PDF)AADオンライン申請手続きについて (日本語)
- (PDF)AAD在线申請手段 (中文)

※申請に必要な書類のうち「志望理由書・研究計画書」は以下の様式をダウンロードしてください。

- (Word) 志望理由書・研究計画書 (Statement of Purpose and Research Plan)

※国際公共政策研究科(OSIPP)に研究生として入学を希望される方は、申請方法が異なりますので、下記ウェブサイトをご確認ください。

<http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/ja/admission/admission-information/#kenkyusei>

注意事項

- ・ AADへの申請は、受付してから結果が出るまでおよそ3週間かかります。志望教員からコンタクトを許可されてもそれが受入れの内諾を意味するものではなく、その後志望教員とのやり取りを経て、受け入れの内諾が得られるかが決まります。AADへの申請は、時間に余裕をもって申請してください。
- ・ AADへの申請は、各研究科・研究所の入試の出願ではありません。
- ・ 研究生受入れ、申請プログラム、大学院入試についての質問は、各研究科・研究所にお問合せください。出願の時期は、ご自身必ず各研究科のWEBページよりご確認ください。入試の出願締め切りまで時間がない場合は、AADにその旨お伝えください。
- ・ 必ず志願者本人が申請手続きを行ってください。

【大阪大学アドミッション支援デスク】のHP:

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/inbound/dragongate>

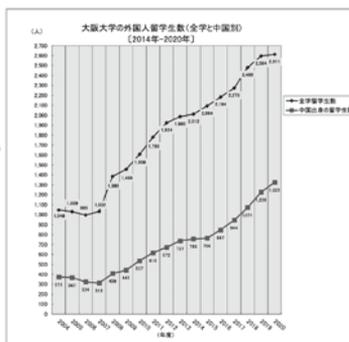
## 大阪大学の留学生の現状

## 留学生数 (2020年5月1日現在)

学部	390
大学院	1,692
研究生	529
Total	2,611

## 留学生出身国/地域 TOP10 (2020年5月1日現在)

国・地域名	国費	私費	合計	順位
中華人民共和国	47	1278	1325	1
大韓民国	56	192	248	2
インドネシア	64	69	133	3
タイ	59	52	111	4
台湾	-	76	76	5
ベトナム	38	37	75	6
インド	31	17	48	7
フィリピン	22	20	42	7
マレーシア	19	19	38	9
フランス	3	28	31	10



・中国大陸からの留学生数の比率は本学の留学生全体の50.7%。

・世界からの優秀な人材の獲得のためには、優秀な中国人留学生の受入が必須。

## 2 アドミッション支援デスクの概要と支援内容

まず大阪大学の現在の留学生の現状ですが、留学生数は今2,611人(2020年5月1日)で15年前に比べて2.5倍増加しました。そのうち中国人の留学生の割合は非常に多く、半数以上が中国大陸からの留学生となっています。ですので、世界から優秀な留学生人材を獲得するために、中国からの優秀な学生の選抜と効率的な受入れシステムの構築は、まず解決すべき重大な課題だと認識しています。

とは言え、増え続ける留学志願者の中から優秀な大学院生を選抜するには、海外の教育システムの知識とそれに関するノウハウに加えて、調査にかなり時間がかかりますので、教職員にとっては過大な負担となります。そのため申請初期の作業は戦略的に整備された窓口が担当することが必須となります。

この窓口の目的は、次の4点です。

①受入れ教員に代わって大学のレベルや

ランキングの調査、さらに卒業証明書や語学証明書などの申請書類のスクリーニングを行うことで、教員の負担軽減をすること。

②大阪大学の申請方法を明確化、簡素化することで外国人留学生からの信頼性向上に寄与すること。

③部局が厳正なアドミッションを行えることで優秀な留学生の受入れを可能とすること。

④全学的に志願者情報をAADに集中させることで、全学部・全部局間での情報共有を可能とすること。

当初審査対象者は中国大陸の大学を卒業または卒業見込みで、本学へ研究生または大学院生としての入学を希望する者でしたが、2021年11月からはこの対象者を全ての海外大学の卒業生、卒業見込みの学生に広げました。

### 3 申請の全体の流れ

まず志願者は事前準備が必要で、志願する研究科、研究所、または指導教員を自分で決めて、AADの案内に従いオンライン申請システムで手続きを行います。

AADは志願者の処理をオンラインシステムで確認して精査します。その後、AADのコメントと併せて志願者の申請情報のリンクを教員に送信します。

教員にとってはAADから送られてきたメールにあるリンク用のURLをクリックすれば、すぐに学生の情報画面を見られます。全ての情報が一つの画面上にあり、また申請書類もアップロードしてありますから、教員側で一括してダウンロードすることが可能です。

教員は全ての学生の申請書類と情報を見て判断してから、最後にコンタクトの可否を選択するボタンを押します。つまりこの段階ではまだ内諾ではなく、教員はコンタクトが可能かどうかだけを判断します。コ

ンタクト「可」であれば教員がその学生に直接連絡をして話しをしてもらい、内諾をするかどうかを決めていただくことになります。

そして可否の「否」の場合は、定型文が用意してあって、どんな理由でダメなのか…例えば「研究室は定員になった」「先生は近々退官する」といった一般的な回答文から適当なものを選べるようになっていきます。もちろんその他の事情を任意で書き込む欄も設けてあります。

教員にとってこのシステムはわかりやすく、手続き上も非常に簡単で、内容を見てからボタン一つを押せばいいだけというわけです。

AADは教員からの返事をシステムで確認すると、その結果を志願者に通知します。志願者はコンタクト可の場合は直接志願した教員と連絡をとり、またオンラインやメールでやり取りをして先生の内諾を得



られれば、出願の手続きに進めることになります。

志願者が申請してから回答まで、約3週間の期間を取っており、主にこの時間は先生に判断していただく時間となっています。

AADの審査自体は、志願者の書類が全

て揃っている場合は、1日、2日で終わります。ですからAADの役割としては、志願者と教員の最初のコンタクトをサポートするということになります。内諾後の手続きは各研究科、研究所の手続きに従って進むことになります。

## 4 主な支援内容

### (1) 出身大学のレベルチェック

中国人留学生を受入れる際、中国での学習履歴の審査が困難であるのは、中国の大学の学部生数の増加による教育の質の低下とシステムの複雑性に関わっています。

成人教育機関にもかなりの学生がいるので、私たちも判断しにくく、特に普通高等教育機関には普通全日制本科、つまり日本の4年制大学に相当する大学の中に「独立学院」が設置されている場合があります。こういった学校のレベルの判断がすごく難しい。

また成人高等教育機関には学校の種類が多くて、実際に大阪大学に申請があったケースで、「自学考试」というのがありました。これらをどう判断するのか、以下で詳しく説明したいと思います。

#### ・独立学院

独立学院は4年制の国公立大学が民間企業あるいは個人と協力して公的資金に依存せずに設立した4年制大学です。独立学院は母体となる大学から独立したキャンパスを持ち、独自に学生募集を行います。試験の合格基準は親大学の基準を下回ることが

普通です。

具体的な例を見ると、独立学院の名称はよく●●大学◆◆学院となっています。大学名が紛らわしいので、レベルの判断が難しいということになります。

例えば「○○理工大学△△学院」というのがあるとすると、これは○○理工大学の△△学部という意味ではありません。たとえば重点大学の名称が付いていたとしても、○○理工大学とは別の大学です。

大阪大学が○○理工大学は大学間協定を結んでいて、教員は「これは○○理工大学なのかな」と判断して、学生を受入れる可能性もあります。ですからAADでは「これは別の大学なので、慎重にご判断ください」と伝えることとなります。

#### ・自学考试

自学考试というのは、日本の通信教育に近い制度です。入学試験がなく、学生は自由に専攻を選び、単位を取得するための試験を受けて必要単位を満たすことで学士の証明書をもらえます。

優良大学にも自学考试制度があって、例えば中国の名門大学の自学考试の卒業証明

書の場合は、担当大学としてその名門大学の公印があります。しかし証明書を持つ学生の学力がその大学から保証されているわけではありません。つまり担当大学のレベルとは関係ないわけです。学士の証明書の下に「成人高等教育本科卒業生」と書いてありますので、自学考试の卒業であり、その名門大学の卒業生ではない、ということがわかります。

教職員にとってはこうした細かいことの判断は難しいので、AADが事情を説明し理解してもらうことになります。

### ・中国の大学ランキング

留学生を受入れる教員にとっては、出身大学のレベル評価は非常に重要な参考情報になります。中国では1995年に「211プロジェクト大学」が出来て、21世紀に向けて政府が資金投資を行う100の大学が選定されました。さらにこの中から厳選された39の大学が「985プロジェクト大学」です。また2017年には「双一流」という大学が選定されて、一流大学構築大学として42校、一流学科構築大学として95校が選ばれました。今までの211大学プラスいくつかの一流学科を持つ大学がここに入っています。

AADは申請者の大学がこのようなプロジェクトの大学に入っているか、調査をしてそのレベルについてコメントを加えて教員に伝えています。

ただし最近はこうした判断がかなり難しい大学もあります。例えば近年、海外の大学が中国にブランチキャンパスを作ってお

No.	所在地域	大学名称	211プロジェクト 指定校	985プロジェクト指 定校
1	北京市	北京大学	○	○
2	北京市	中国人民大学	○	○
3	北京市	清华大学	○	○
4	北京市	北京交通大学	○	
5	北京市	北京工业大学	○	
6	北京市	北京邮电大学	○	○
7	北京市	北京理工大学	○	
8	北京市	北京科技大学	○	
9	北京市	北京化工大学	○	
10	北京市	北京邮电大学	○	
11	北京市	华北电力大学	○	
12	北京市	中国矿业大学	○	
13	北京市	中国传媒大学	○	○
14	北京市	北京林业大学	○	
15	北京市	北京中医药大学	○	
16	北京市	北京舞蹈大学	○	○
17	北京市	北京外国语大学	○	
18	北京市	中央财经大学	○	
19	北京市	对外经济贸易大学	○	
20	北京市	中国政法大学	○	
21	北京市	北京体育大学	○	
22	北京市	中央民族大学	○	○
23	北京市	中国传媒大学	○	
24	北京市	中央音乐学院	○	
25	天津市	南开大学	○	○
26	天津市	天津大学	○	○
27	天津市	天津医科大学	○	
28	河北省	河北工业大学	○	
29	山西省	太原理工大学	○	
30	内蒙古	内蒙古大学	○	
31	遼寧省	遼寧大学	○	
32	遼寧省	大连理工大学	○	○
33	遼寧省	东北大学	○	○
34	遼寧省	大连海事大学	○	
35	吉林省	吉林大学	○	○
36	吉林省	延边大学	○	

211プロジェクト大学・985プロジェクト大学一覧  
[https://spc.jst.go.jp/education/university/univ\\_000.html](https://spc.jst.go.jp/education/university/univ_000.html)

り、上海ニューヨーク大学、香港中文大学深圳分校といった大学がどんどん増えていて、共同して学部を作るといったことをしています。このような大学はまだ世界ランキングに入っていない、中国国内のランキングにも入っていない場合があります。AADではこれらの大学がどの程度のレベルなのかを調べるために、高考（ガオカオ普通高等学校招生全国统一考試）の成績なども調べるのですが、省によって高考の成績は違いますので、判断するのが難しいわけです。ですから、同じ省の985大学

に入る場合と同じ点数で学生が入っているのならば、その大学は985大学相当だというコメントをつけて先生にわかりやすく伝えていきます。

また、国立研究機関の附属大学である中国科学院大学や中国社会科学院大学、といった大学はどんな大学なのかを説明して、どのようなレベルにあるのかを理解してもらいます。

上海科技大学や南方科技大学など、新しく設立されている大学は、かなりレベルが高いのですが、ランキングの中には入っておらず、やはり教員が自ら調べるとなると判断が難しいので、AADの調査でコメントを詳しく付けて、学力判定の判断材料にしていだければと考えています。

## (2) 学位・在学、語学などの証明書のスクリーニング、及び安全保障輸出管理の要否の教員への結果通知

中国の大学既卒者がAADへ申請するときに必要な書類は卒業証書、学位証書、また中国教育部電子登録備案表となります。卒業見込み者は在籍証明書と、中国教育部の学籍在線検証報告書が必要となります。両者で共通なのはAADシステム上での個人履歴情報の入力、志望理由書と研究計画書、成績証明書、

そして語学証明書などの書類となります。

学歴の検証は中国学歴・学籍認証センター（CHSI）のオンラインシステムで行います。AADではこれらの情報の内容を詳しく調査します。学生の名前や写真が全ての証明書で一致しているかどうか、身分IDや卒業大学の確認など、詳しく調査してからコメントを作ります。

なぜこのように証明書類のスクリーニングが必要なのかというと、まず書類のねつ造の問題があります。先ほども日本留学はハードルが高くて、どう先生の内諾を得ればいいのかわからないという話をしましたが、そのため仲介業者に申請の代行を行ってもらうことも普通にあります。仲介業者には悪質な業者も存在しているという事情もあり、現状、多数の留学希望者から質の高い学生を選抜するためには、その国の教育システムの知識に加えて、調査のためのノウハウと時間が必要ということになります。

**日本経済新聞**

新聞・タリ ストーリー My

トップ 速報 マネー 経済・金融 政治 ビジネス マーケット テクノロジー 国際 オピニオン スポーツ 社会・くらし

**日本語能力の偽造証明書相次ぐ 就職などで悪用か**

2019/11/7 20:29 | 日本経済新聞 電子版

保存 共有 寄稿 ツイット その他

外国人を対象とした「日本語能力試験」の合格を証明する認定書が偽造される事件が目立っている。日本語の能力は在留資格の取得や就職の際に重視され、外国人の受け入れ拡大に伴い受験者が急増している。捜査幹部は「偽造でも証明書を入手したい外国人が増えている」とみる。

今年4〜5月、国際スピード郵便をチェックしていた名古屋税関職員が不審な書類を相次ぎ発見し、愛知県警に通報した。日本語能力試験に合格したとする外…

◆ この記事は会員限定です。電子版に登録すると続きをお読みいただけます。

無料・有料プランを選択 会員の方はこちら

日経電子版 2019.11.7

2019年11月7日の日経新聞電子版に「日本語能力の偽造証明相次ぐ」という記事が掲載されました。

就職や受験のためにこのような偽造が発見されるケースが増えているということです。

AADでは中国でJLPTを受験している場合のみ検証しています。具体的には中国教育部の試験センターで、学生の受験番号と身分ID番号を使い、インターネット上で検証することが可能です。

日本で受験した場合ですが、日本の(公財)日本国際教育支援協会の試験センターに試験結果の照会依頼はできますが、受検者本人の委任状が必要となります。オンラインですぐに検証というわけにはいかず、本人の委任状をもらってメールで試験センターに検証依頼をします。また、結果をもらうまでに1-2週間かかるので、少々不便です。

また、学位証の偽造も簡単にできるといふことで、検索エンジンで「●●大学

の学位証」と検索するといろいろな結果が出てきて、そこにある連絡先にコンタクトをとれば簡単に安く学位証を作ることが出来ます。

さらに、研究計画書も商品としてショッピングサイトで販売されています。安い場合は1000円、2000円で注文することが出来るんです。

こういった情報を教職員に伝えると皆さんショックを受けて、AADのような窓口でスクリーニングをしてもらってから、安心して留学生を受入れられるようになった、というコメントをいただいています。

### (3) 教員に代わって志願者にコンタクトの可否を通知すること

3つめの支援内容としては教員に代わって志願者にコンタクトの可否を通知することです。これにより教員は内諾に向けて検討する前の志願者との直接のやりとりが不要となります。

## 5 期待される効果と課題

AAD開設当初の1年半は、教員と志願者へのサポートはメールで行っていましたが、通信環境やセキュリティーの不安があり、2019年の4月からオンライン申請システムを導入し、今は全てこのシステムで運営しています。このようなシステムを導入してから業務の効率化、志願者の情報の一元化管理、またセキュリティーの強化が計れました。

このような審査システムと、大学の入試システム、留学生管理支援システムなどを連携させ、入学前から卒業までをワンストップサービスで提供できるようなシステムを今後構築する予定です。さらに本学の安全保障輸出管理部門との連携によって、安全保障の手続きへの移行もスムーズとなります。

また、AADは中国の教育制度について

て、全学の教職員向け問合せ窓口としても機能しています。さらに志願申請におけるこのような手続きの明確化と簡素化を、説明会で留学生にアピールすることで、中国のトップレベル校からの申請者数が増えてきており、大阪大学の信頼性の向上に加えて留学生の誘致にも効果があると思われます。

今後の課題ですが、現状、日本全体として外国の履修学歴とか資格評価体制がまだ一元化的に行われておらず、各国の学歴や資格に関する情報の共有・蓄積のための体制整備が整えられていません。2019年の9月に開設された高等教育資格承認情報センター（NIC-Japan）は、設立以来各国の情報提供やセミナーを行っていて、現在そちらからいろいろな情報を得ていますが、今後もこのセンターの機能に期待しています。

本日は大阪大学の取り組みを紹介しましたが、京都大学 AO の先行事例もあって、このような窓口のニーズは非常に高く、成

果も上がっていることが確認されています。現在、京大、阪大以外に、いくつか他の国立大学も同じようなオフィスや窓口を設置するための準備を進めています。

今後、もしこのような大学間の連携でコンソーシアムを形成できれば、各大学で得意な地域や分野が違いますので、それぞれの評価業務のノウハウを共有して、また申請システムの共同開発を行い、全学的に向上していくことが期待できるのではないかと思います。

最後の課題としては、日本のデジタル認証の遅れがあげられます。中国やアメリカ、韓国などの大学の証明書データ認証はかなり進んでいますが、日本の大学が発行した証明書は、ほぼデジタル認証できていません。大阪大学も同じ課題を持っています。

先ほども述べた通り日本語能力試験の結果は中国ではオンラインで真贋チェックができますが、日本国内の受験者の場合はまだできていません。このような証明書のデジタル認証の改善を望んでいます。



李明（り・めい）

現在 大阪大学グローバルイニシアティブ機構特任助教  
大阪大学言語文化研究科博士後期課程修了後、同大学国際戦略推進室特任研究員、同大学高等教育・入試研究開発センター特任助教を経て、現在に至る。

<研究テーマ> 高等教育の国際化、学生・教員の国際移動、外国学歴・資格評価